

ごあいさつ



阿 部 宏 慈

ダイバーシティ連携推進会議議長
山形大学理事・副学長
男女共同参画推進室長

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）の3年目の実施報告にあたり、ダイバーシティ連携推進会議の議長としまして一言ご挨拶を申し上げます。

これまで、連携機関の大日本印刷株式会社研究開発センター 三宅徹センター長様及び山形県立米沢栄養大学 鈴木道子学長様のご理解を得まして、密接な連携体制のもと女性研究者のワーク・ライフ・バランスを支援し、それぞれの強みを活かした女性研究者の研究力向上をめざして取組みを進めてまいりました。今年度の秋、大日本印刷株式会社研究開発センター長に中西稔様が就任され、お世話になっております。前任の三宅センター長様には、強力なリーダーシップを発揮していただき、本事業を牽引していただきましたことに、感謝申し上げます。

さて、今年度は6年間の事業期間の中間にあたり、総括と中間評価の年でした。お陰様で、女性研究者が働きやすい環境や制度の整備、女性研究者割合と上位職割合の増加、研究業績数の増加など、多くの成果をあげることができました。昨年度の事業への総参加人数は前年比1.4倍に、支援人数は2.8倍に、研究業績は2.7倍に増加しております。女性代表共同研究の支援は本事業の要であり、3年間で14件の支援を行いました。

特に、サービスデザインプロジェクトは、本事業の特色として高い評価を得ております。3機関の女性研究者が、豊かな未来の生活へ向け、山形県の女性が抱える問題解決を目指す研究テーマを創出し、平成29年7月に2件の特許出願を果たしました。このプロジェクトをとおして、3機関の女性研究者の研究力向上につながっております。

以上、詳しくは本報告書に紹介しておりますので、是非ご覧下さい。

今後、本事業は、事務局である山形大学男女共同参画推進室米沢分室を中心に密接な連携体制を維持し、事業を継続していきます。さらに、これまでの取組の成果を継続・発展させるため、ライフイベントに配慮した人事評価制度や人材交流、山形大学COIとの連携、ダイバーシティの大学間ネットワーク構築と南東北への拡大などに取り組んでいく方針です。ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業がさらに実り多いものになりますよう、連携機関及び関係各方面の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。